

白 企 第 223 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

白糠町長 棚 野 孝 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて、
別添のとおり回答します。

（企画総務部企画財政課企画調整係）

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道白糠町

国土の5分の1を占める広大な面積の北海道にあって、その中でも釧路管内は、基本的なインフラ整備が立ち遅れている状況にあり、特に高速交通ネットワーク構築の実現は、道内の主要な圏域相互のアクセスを強化し、経済、社会、文化における広域的連携・交流を促進するとともに、積雪寒冷地における冬期間の安全な交通網を確保につながります。

道路事業整備の一層の選択と集中を図り、必要と判断される道路は、整備に必要な道路財源を安定的に確保し、早期の完成を図ることが、道路が持つ機能と効果がより一層発揮されるものと考えます。

現在、釧路管内の町村では、今後の釧路圏域としてのあるべき姿や、その発展の方策について広域的な論議を進めております。このことは、オール釧路として広域的な連携を進め、個々での振興から全体での振興を図っていくことを目指しているとするものであります。今後、地域ビジョンを策定していく中で、経済活動などの基盤をなす必要な道路政策について、圏域としての声をあげてまいりますので、御協力をお願いするものであります。

また、地方分権改革推進委員会の第1次勧告において、国道の整備と管理権限を都道府県に移譲する対象路線が取りまとめられたが、北海道はもとより、所在市町村の意見も十分に踏まえながらその対応にあたっては慎重に進められることを望む。

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道白糠町

○現状

当町は、これまで豊かな海の恵みに支えられた水産業、広大な土地と冷涼な気候を利用した酪農業、エネルギー資源である石炭鉱業などを基幹産業として発展してきました。しかし、近年では、北洋・沖合域での漁獲量の減少、農畜産物の輸入自由化、太平洋炭坑閉山など、基幹産業の衰退により、道内でも厳しい経済状況に立たされています。

このような状況の中、地域経済の基盤である第一次産業を守り育てることを中心に様々なまちづくりの施策を推進しているところです。

町内で生産した酪農製品43万トン、海産物77万トンは釧路港・小樽港・苫小牧港へトラックで陸送された後、本州へ出荷されています。

また、釧路地域は、阿寒、摩周、屈斜路の3大カルデラ湖や雌阿寒岳、雄阿寒岳など火山・原生林を有する阿寒国立公園や釧路湿原など、自然環境にも恵まれており、一次産業を生かした酪農体験など、観光産業と一次産業との連携強化にも取り組んでいるところです。

○課題

苫小牧港への陸送ルートである一般国道38号は、近年多発している災害等で通行止めになることが多く（過去6年間で13回の通行止め）、当町を含めた東北北海道の経済活動に大きな支障をきたしており、災害発生時における代替性の強化に寄与するネットワークの整備が必要不可欠となっています。

また、観光産業と一次産業との連携強化を実現していくためには、道東圏と道央圏を結ぶ物流や、広域観光の振興に資する高速道路ネットワークの早期の建設が必要不可欠となっています。

②－② 地域の目指すべき将来像

北海道白糠町

農業、漁業、林業等の一次産業を基幹産業としている当町では、地域資源を見つめ直すことを「まちづくり」の基本方針としており、日本の食料基地として発展してきた特性を活かし、一次産業の更なる振興と合わせた加工による付加価値の向上、地域内外、道内外に提供するシステムの構築等を目指しているところです。

地域の目指すべき将来像を着実に実現していくためには、北海道横断自動車道へのアクセス向上や利便性・安全性の一層の向上を見据え、国道 392 号をはじめ国道・道道の整備改良を積極的に進めるとともに、これら幹線道路網との連携や機能分担に配慮しながら、道路網の充実に向け町道の整備を計画的・効率的に進めることが重要と考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道白糠町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上と 災害に強い地域づくり	高速交通ネットワークの形成	地域産業の競争力の強化 広域観光の振興 地域間交流の促進 路線の多重化の確保	